

## 第6回安城市スポーツ振興計画策定委員会議事録

日 時	平成26年10月29日（水）午後1時30分～午後3時
場 所	安城市体育館3階第4会議室
出席委員	平岩文雄委員長、横山修副委員長、加藤治好委員、山本新平委員 藤浦快也委員、石川恭委員、岩月俊二委員、吉田祥子委員 近藤金光委員、稲垣寿隆委員、神谷道紀委員、加藤宣子委員
欠席委員	笠原喜美江委員、森下秀一委員、澤信一委員、高畑尚弘委員
事務局出席者	生涯学習部長、スポーツ課長、スポーツ振興係長、施設管理係長、籠瀬
委託業者出席者	寺崎
次 第	1 市民憲章唱和 2 あいさつ 【議題】 1 第2次安城市スポーツ振興計画素案の主な変更点について 2 第2次計画資料編について 3 今後のスケジュールについて 4 平成26年度上半期の主な事業の進捗状況について

### 1 市民憲章唱和

### 2 あいさつ

（平岩委員長）

皆様、こんにちは。本日は、お集まりいただき、ありがとうございます。

先月から今月にかけて韓国の仁川で開催された第17回アジア競技大会で、藤浦委員のアイシン・エイ・ダブリュ株式会社の選手が大変活躍されました。レスリング女子フリースタイル63kg級に出場された渡利璃穂選手が、金メダルを取られたときに、偶然、ライブで見ておまして、非常にうれしく思いました。また、女子バスケットボールでも諏訪裕美選手と馬瓜エブリン選手が銅メダルと、安城市ゆかりの選手が活躍され、大変うれしく感じています。

また、6年後の東京オリンピックや愛知県が誘致を目指しているフットサルのワールドカップに安城市の選手が1人でも出て活躍されるように、周囲で協力して若い選手を育てていきたいと思っております。

本日は、パブリックコメントまでの最後の会になりますので、ぜひ、委員の皆様の忌憚のない意見を出していただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

（生涯学習部長）

本日はご多忙の中、この会議にご出席いただきまして本当にありがとうございました。また、日ごろからスポーツ振興に対し、格別なご理解とご協力をいただき、厚く御礼申

し上げます。

きのう、根羽村役場とキャンプ場に行ってまいりました。きのうは根羽村役場で1.5度くらいでした。さらに、山の方では氷が張っているという話もあり、こちらはもう冬だなという感じがしました。そういう中で、皆様方もお体には十分気をつけて冬を迎えていただきたいと思います。

先ほども言われましたように、本日はパブリックコメントまでの最終の会議になります。皆様方から忌憚のないご意見を頂きながら、いいものにまとめていきたいと思っておりますので、ぜひ、ご協力をお願いします。

## 【議 題】

### (1) 第2次安城市スポーツ振興計画素案の主な変更点について 事務局より、計画素案に基づき説明

#### (近藤委員)

子どもたちが一生懸命スポーツに親しむという文言がありましたが、心と体が一緒に成長すればいいと思います。安城市の子どもたちはソフトボールとフットベースボールを多く行っているのか、「投げる」「打つ」に関係した項目の体力・運動能力の結果が非常によいのですが、腹筋を鍛えるなど床運動のようなものがあまりよくない状況となっています。少し、片寄っているのではないかと感じますが、ソフトボール、フットベースボール、相撲以外にどのようなスポーツをしていますか。

#### (稲垣委員)

小さいときはドッジボール、サッカー、テニスくらいです。あとは親がやっているスポーツなどに一緒に行く形で、今は水泳が多くなったのではないかと思います。十数年前と比べるとソフトボールやフットベースボールをする子どもの人口が半分くらいに減っています。

#### (横山副委員長)

例えば、ソフトボールでも練習試合には親がついていく必要があり、親に負担がかかって子どもにさせないという話も結構聞きましたので、やはり、親の影響がかなりあるかと思います。親御さんに協力いただかないと、スポーツの普及についても難しいのかという気がします。

#### (近藤委員)

球を投げるのが非常によくて、少し、片寄っているのではないかと感じます。子どもたちの発育のため、そういうスポーツをしてはいけないということなら仕方ありませんが、走るにしても飛ぶにしても腹筋が強くないと、上と下のバランスが取れないと思います。

(稲垣委員)

今は昔と違って木登りや鉄棒などは危険だからとさせないことが多くなっています。これからの時代は、親が参加させられるようなスポーツという方向になっていくのではないかと思います。

(平岩委員長)

今、スポーツ指導者養成講習会を受けていますが、低学年のうちは、筋力をつけずに技術的なことを教え、高学年になれば筋力をつけるなど、考えがあると思います。

(山本委員)

スポーツテスト等の結果を見ても、子どもの体力・運動能力は、明らかに落ちてきていますが、高校生くらいになると部活動で専門のスポーツを選考し、そのスポーツに必要な筋肉があれば問題ないと考えています。体幹部分の腹筋や背筋はあるに越したことはないのですが、生徒自身もそこまで重要視していませんので、あえてトレーニングすることもありません。

(加藤治好委員)

筋力をつける行為は、身長伸びが若干止まる可能性もあるので、それほどしていません。柔軟性については、けがの防止も含めて準備運動の中でしっかりする必要性は感じています。授業を見ていると柔軟性を高めるまでの準備運動はしていないので、今後、けがの防止も含めて、そういう部分を取り入れることは必要かと感じています。

(平岩委員長)

安城市はサッカーや剣道、陸上も小学校低学年からやっていて、強い人もたくさんいますが、ソフトボールが強すぎるので目立っていると感じます。

(近藤委員)

あまりに片寄った筋肉をつけると身長伸びに関係があったりします。子どもたちがソフトボール、フットベースボール、相撲等に引っ張りだこで大変な状態になっていることは確かなので、強要するのはあまりよくないと思っています。

(稲垣委員)

他のスポーツの行事をしても1回だけで継続しません。ソフトボール、フットベースボールは各子ども会でしていますが、人数も半分に減って学区ごとにしようという話も出ています。ドッジボールなどの行事もありますが、親も参加しないとできないし、学校等の日程を全部合わせる必要があり、なかなか日程等が決まりません。

(平岩委員長)

40、41ページの「第5章 計画の指標」に関して、意見はありますか。

(山本委員)

スポーツ実施率の定義ですが、スポーツをどの程度すれば、スポーツをしたと捉えるかという基準がぶれてしまうと、アンケート結果で出てくる数値があまりあてにならないものになるのかと思います。

(事務局)

計画の27ページに「スポーツの定義」を入れていますが、体を動かすことを全般的にスポーツだと考えております。ただし、ここでスポーツの捉え方を記述しても、どうしても個人差が出てしまうと思いますので、捉え方を統一することはなかなか難しいと思っています。

(山本委員)

アンケート調査には「スポーツの定義」を最初に載せて、「週1回スポーツをしていますか」と聞いていますか。

(事務局)

昨年行ったアンケート調査では、冒頭で「このアンケートにおいて「スポーツ・運動」とは、競技としての運動のほか、健康づくりのために行う散歩、サイクリングやレクリエーションなど、体を使う運動全般を指します。」という記載をしています。表記の仕方が目立たなかったかと感じております。

(石川委員)

職場で準備運動をしたり、土日に散歩したり、若者も体を動かすような遊びをしていると思いますが、こうした表記を読まずに漠然と「スポーツ=きちんとした運動」のような感じでアンケートに回答している気がします。

(近藤委員)

例えば、ウォーキングでも10分位だと、スポーツと言えるだろうかという気はします。私は、歯を磨きながら屈伸運動をしたりしますが、スポーツだと思っています。

(稲垣委員)

「運動」と入っているので、10分位の屈伸運動や準備体操も「運動・スポーツ」に含めていけばいいのではないかと思います。

(岩月委員)

種目を挙げればきりが無いと思いますが、世界的には囲碁とチェスはスポーツに入るそうですので、そうしたものや朝の体操等も入れれば、50%以上になるのではないかと思います。

(加藤宣子委員)

この会議では「スポーツ」が前面に出ているので悩むところですが、身体活動という捉え方があり、現時点より10分多く動きましょう、少しずつの身体活動をトータルして考え、少しずつでも健康に近づきましょうという「プラス10」という活動があります。柔軟性の話もありましたが、整理体操やラジオ体操も含め、きちんと身体活動をしていこうという気持ちがあれば、柔軟性も養われ、日常生活の中で使う腹筋は鍛えられると思いますので、現状にプラスして何かする気持ちがあるかないかということかと思っています。

(近藤委員)

奥さんが掃除機をかけながら屈伸をしますが、結構きつくて、有酸素運動になるのでスポーツだと思います。スポーツはアウトドアでするものでなくてもいいと思います。

(神谷委員)

それぞれが健康づくり、体力づくりのためにやるのが広い意味のスポーツだということやっていけば、もう少し、皆さんがいろいろなことができると思うので、「スポーツの定義」の中の「健康・体力づくりのために体を動かす」という文言は非常にいいと思います。

(横山副委員長)

明確な基準がないので、どれだけ運動したらスポーツをしたことになるのか、皆さんが分からないのです。

(神谷委員)

私もテレビを見ながら30分したり、1時間行ったりしますが、それぞれが1日の中で時間をつくり、10分でも20分でもいいので継続することが一番大事なことです。

(横山副委員長)

今回は直接影響はないと思いますが、会社にいたときに、徒歩やランニング、自転車など、それぞれの運動量の基準を決め、ポイント制にして職場対抗でやったことがあります。その場合、基準がはっきりしていますが、そういうものが見えないので、皆さんが判断に苦労されているのではないかという気もします。

(石川委員)

普段、運動していないと思っている人は、「運動はしていない」に丸を付けますが、万歩計を付けると、「こんなに歩いたのか」と驚くことがあります。

(加藤宣子委員)

目標の50%というのは簡単なようですが、実質50%になるよう意識を変えていくには、もう少し時間がかかると思いますので、そうした考えで、これからスポーツ、運動などの普及に取りくんでいきたいと思います。

(事務局)

ご意見を頂いた中で、皆さんの意識というところで非常に差があるのかと感じています。50%は現状の43.1%と比べると少し目標が高いと感じますが、意識の持ち方で何とかするという気持ちにもなります。

(稲垣委員)

昨年実施したアンケートの対象は何歳から何歳までですか。

(事務局)

20歳以上の方から無作為抽出し、上は80歳くらいの方もおられました。

(議題1了承)

(2) 第2次計画資料編について

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料1ページから9ページに基づき説明

議題2了承

(4) 平成26年度上半期の主な事業の進捗状況について

事務局より、資料に基づき説明

(近藤委員)

以前は球場等の施設を借りるために抽選をしていました。スポーツ施設の利用状況を見ると野球場の人数が激減していますが、今は抽選をされていないのですか。

(事務局)

平成24年度は総合運動公園で市制60周年の行事として子どもまつりを行い、2日間で約4万人が入りました。それが計上されて野球場の利用状況はその年だけが突出しています。抽選は行っており、思うように予約ができない方もおられ、心苦しいところでは。

(平岩委員長)

軟式野球連盟の方に伺うと、なかなか野球場の予約が取れないことから、野球をする場所が限られ、平成26年度は連盟の登録チームが少し減ったと聞いています。

(神谷委員)

町内会で小学校の運動場を借りて運動会をしますが、「(8)スポーツ施設の利用状況」にある「学校施設」には、そうしたものは含まれていますか。

(事務局)

学校開放の委員会を通して利用された場合は含まれておりますが、学校の配慮で貸している地元の行事等は、学校開放の利用回数として含まれていません。

(神谷委員)

基本的には、学校の体育館の利用分ということでしょうか。

(事務局)

学校の運動場分も含まれています。主には学校開放の登録団体に対して貸し出す形での利用の回数ですので、町内会は別の扱いになっていると思います。

(横山副委員長)

中学校のナイター設備を使った場合も「屋外施設」に含まれてないのですか。

(事務局)

屋外施設の「学校施設」に含まれていると思います。

(神谷委員)

先日の土曜日に地元の運動会を北部小学校でさせていただき、1,500人ほど出ましたが、そういう人数もカウントされていますか。

(事務局)

そうした利用については、含まれていないと考えられます。

(藤浦委員)

スポーツ施設の利用状況に平成26年度の上半期の人数がありますが、各施設の年間の最大人数は算出してあるのでしょうか。予約が取りにくいという中でキャパシティに余裕があれば、工夫すれば取れるのかとも思います。

(事務局)

例えば、野球場をグラウンドゴルフで使っていただくこともあり、先日、JAあいち中央の関係で700人とか800人が利用されました。60周年の行事で1日2万人ということもありますので、何時間で何人というものはなく、申請に基づいた中での積み上げ計算になります。

(藤浦委員)

第2次安城市スポーツ振興計画素案30ページの「スポーツ振興施策の展開」にある内容が今後進められていく中で、これに結び付いた進捗状況を、今後、どのように市民が閲覧できるのでしょうか。

(事務局)

例えば、今回の計画の中で、「週1回以上のスポーツ実施率50%以上」といった数値目標をたくさん掲げれば、結果は毎年出てきますが、今回はそういうものがあまりありません。資料編にありますように、スポーツ推進審議会を毎年2回行っていますので、年度当初の審議会でも年度目標を立て、その進捗状況を年度末の推進審議会でも諮っていただき、その結果をホームページ等に掲載するという形で進めていきたいと考えております。

(平岩委員長)

10ページの「おはよう！ふれあいラジオ体操会」や「歩け・ランニング運動」は一般の方にまだ浸透していないのではないかと思います。例えば、町内会に協力いただければもっと増えると思いますので、ぜひ、PRをお願いします

(近藤委員)

「歩け・ランニング運動」は少なすぎると思いますが、PRされていますか。

(事務局)

広報とホームページに掲載しています。あとは、市内25会場の指導員さんが地域にチラシを配るなどして周知を図っていますが、新規で歩いてもらえるよう、さらに工夫したいと思います。基本的な歩け・ランニング運動は、4月から10月の毎週日曜日朝に集まった方で30分から1時間ほど地域を歩くことを30年続けていただいています。この資料の数値は、月に1回程度イベント的に歩くイベントの数値となります。

(神谷委員)

歩け・ランニング運動に参加するためには、何か登録が必要ですか。

(事務局)

特に必要ありません。

(近藤委員)

どれくらいの距離を歩くのですか。

(事務局)

一番距離が長いのが、「デンパーク歩け運動」で、市役所からデンパークを越えて丈山苑まで、片道5km強です。次に長いのが「八ツ面山歩け運動」でJA桜井支店から八ツ面山の展望台まで、片道4km強となっています。

(神谷委員)

「カキツバタ歩け運動」はどこが出発点ですか。

(事務局)

北部公民館から無量寿寺までです。毎週同じ所ではつまらないので、1か月に1回は遠足気分が違う所へということで、広報に載せたりして、参加者募集をしています。

配付させていただいたものが、平成24年に作成した市内25会場を紹介した地図です。地道な運動ですが長く続けている方が多く、今後も継続して行きたいと思っています。また、仲の良い人たちがいる中に、新たに入りにくいところがあるのかと思いますので、PRをいかにうまく行うかも課題とだと思っています。

歩け・ランニング指導員として同じ人が長く務めていただいている現状で、年齢が高くなってきていますが、地元で歩かれて、途中で分かれて家に帰られるという話も聞いています。私たちも4月の最初に各会場を回って一緒に歩いたりしていますが、非常に息の長い運動ということでは自慢できるものです。

(吉田委員)

「(3)安城選手権夏季水泳競技会」については、年齢で分かれていて誰も参加していないカテゴリーもあるので、もう少し周知が必要かと思っています。

先日、安城選手権の秋季陸上競技会があり、愛知駅伝の代表を決める選考会にもなっている重要な大会だと思っていますが、中学生男子3,000mに参加したのは6人、女子1,500mは5人ということで、その中から代表1人と補欠1人を決めるのはどうかと思っています。例えば、各中学校から代表を数人出して、競って代表を決める形がいいと思いますが、学校から選抜で送り出すシステムはできないのでしょうか。

(加藤治好委員)

時期的に選考するのが早いと思います。学校でもマラソン大会をするのが冬なので、選抜するのが12月くらいなら、そうした対応もできますが、早い時期に選ぼうとすると、陸上部で日ごろ走っている子が安城選手権に出場することになり、どうしても少なくなると思います。例えば、1レースだけを選考レースにするのではなく、安城シティマラソンでのタイムを参考にピックアップしておくとか、そういうことはできると思いますが、学校から出すのはなかなか難しいと思います。

(吉田委員)

小学生も3番、4番辺りの子は他のスポーツをしていたりして「ぼくは嫌だ」と言います。小学生は仕方ないにしても中学生は陸上部で最低1人は出してほしいと思います。

(加藤治好委員)

結構、勧誘はしていますが、今は陸上部に入っている子が少なくなっています。小学校で活躍したメンバーが入れば安城市の中学校は強い状態になりますが、いろいろな種目に分かれて、それぞれ活躍している状態です。

(吉田委員)

「安城選手権」という名が付いているので、各学校1人くらいは出していただいて、安城市の中で一番だとなったほうが喜びも大きいのではないかと思います。

(加藤治好委員)

おそらく選手になっている子はトップクラスの子たちだと思います。

(平岩委員長)

我々も陸上競技協会に提案していきたいと思います。安城シティマラソンも開催日程が遅いので、選考は難しいと思います。

(近藤委員)

防災訓練でAEDを学び、非常にいいものだと思います。総合運動公園内のAEDの設置数や利用状況を教えてください。医療関係しか使わないのでしょうか。

(事務局)

講習を受けていただければ一般の方もできますし、機械自体からガイダンスが流れて操作できるようになっています。体育館の玄関を入った所、陸上競技場の本部席、青少年の家、中央公民館にそれぞれ1つあります。屋外の施設については、例えば野球場はベンチの後ろに最寄りの設置場所を書いた看板が設置してあります。ただ、昨年からの実績ですが、その間に使われた形跡はありません。

(平岩委員長)

4～5年前に東山中学校でバスケットボールで倒れ、AEDを使って助かったと聞いています。

(藤浦委員)

バスケット協会では、市の施設ではないのですが過去に使ったことが2回、2年連続であり、1回目の方は助かりませんでした、2回目の方は助かりました。

(近藤委員)

AEDの前に緊急の場合の人工呼吸や心臓マッサージが必要なので、その教育が大切かと思いました。

(神谷委員)

講習を受けて許可証を持っている方も、1年に1回くらいアフター講習を受けないと、いざというときに使えません。町内会でも毎年1回、20名ずつ集めてやっていますが、3回目くらいで、ある程度できる形です。

(岩月委員)

オリンピックの動きを見ると、外務省が中心で文科省もかかわり、「スポーツ・フォー・トゥモロー」というオリンピック限定の取り組みをしていくとのこと。市の施策とは異なると思いますが、主に国外の100カ国以上、1,000万人以上を対象とし、特に発展途上国の人たちへのスポーツ機会の提供や、ハード・ソフト両面で日本がサポートしていくという動きがあります。スポーツ基本法を中心に国内で培ったものを海外で提供していこうという流れがあるということは、子どもたちが、今後、青年海外協力隊などで海外に出て活躍する機会も増えるのかと思います。安城市での取り組みを分かってもらえれば、発展途上国で普及するときの原体験となり、参考になるのではないかと思います。

歩け・ランニング運動の話などを聞いていると、スポーツ・運動として取り組むというより、いかに普段から地域とのつながりがあるかが大きいと思います。行政の他の分野も含めて、まちづくりという中でスポーツが今後どういう位置づけになるか、それがスポーツ振興計画の中にどう反映されていくかを考えるいい機会であると思いました。

(事務局)

今回は、来年3月5日(木)、午後1時30分から、この会場で開催する予定です。

以上をもって、第6回安城市スポーツ振興計画策定委員会を終了させていただきます。どうも、ありがとうございました。

以上